

南風便り



No.46

2016 WINTER

地域と南風病院を結ぶ

History of Gastroenterology



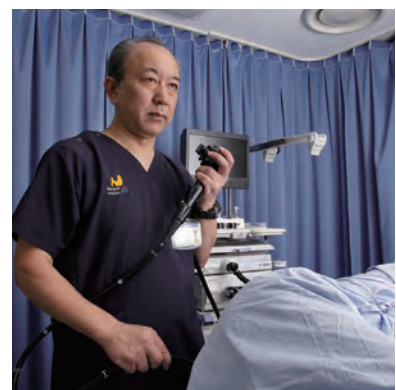
Cholangio-Pancreas



Upper GI Tract



Lower GI Tract



特集

消化器内科のこれまでの歩み と 今後の展開
 データで見る南風病院の診療実績(消化器疾患) 2~5
 インタビュー 胃がん編 / 食道がん編

CONTENTS

シリーズがん 肝臓がん 〈肝臓内科〉 6
 シリーズ 地域で支える 始良市平松 尾田内科胃腸科 7
 消化器内科医師一覧 8



南風病院消化器内科のこれまでの歩みと今後の展開

創設編 ～おかげさまで50周年～

皆さまの支えもあり、消化器内科は1966年に南風クリニックの中に開設され、おかげさまで50周年を迎えることができました。当時は、第2内科から派遣された先生を中心に構成されており、教授の佐藤八郎先生をはじめ寄生虫がご専門の尾辻義人先生、消化器の中馬康夫先生、政信太郎先生のご指導の下、熱心に臨床や研究に励まれ、今日の南風病院の消化器内科の礎を築いていただきました。中でも南風病院の消化器内科を背負うことになる政先生は、消化器の権威である白壁彦夫先生の下で研鑽を重ね、当時、最先端の手技である二重造影法などを学んで南風病院に持ち帰り、早期胃がんの診断を鹿児島島の地でも開始いたしました。

1990年には、消化器病センターの開設、そして西俣寛人(現南風病院名誉院長兼消化器内科主任部長)が院長に就任し、今日の消化器内科を南風病院の診療の柱とした医療体制の構築が加速しました。



熟成編 ～がんの早期発見・早期治療の充実～

がんの診断・治療の進歩は目覚ましいです。当院でも画像診断センターを開設し、PET/CT装置を導入しました。導入当時は、高額な投資であり不安の声もありましたが、今ではがんの診断には必要不可欠な検査となりました。2010年には2台目を導入し高い稼働率を維持しています。

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)は虎の門病院にて技術習得した

昭和41年

■ 南風クリニック／消化器科の開設



平成2年

■ 消化器病センターの開設

平成6年

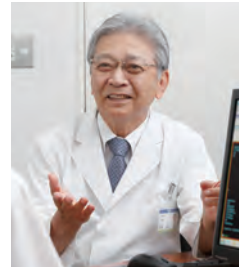
■ 西俣寛人院長就任

平成8年

■ 政記念消化器病研究所の創設

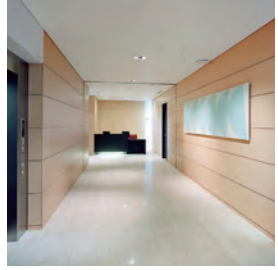
平成16年

■ 松田彰郎(消化器内科部長)、第29回村上記念『胃と腸』賞を受賞



平成18年

■ 画像診断センターの開設
■ PET/CT装置の導入



平成19年

■ 島岡俊治(消化器内科部長)、欧州消化器病学会 最高賞を受賞



島岡俊治(消化器内科部長)を中心に積極的に施行してきました。2009年に「高齢者に対するESD」を欧州消化器病学会で発表したところ、最高賞を受賞することができました。これらの積み重ねもあり、現在では、胃がん、食道がん、大腸がんのESD施行件数は年間160件を超えます。大腸がんの取組みとしては女性医師が行う女性大腸検査を開始し、毎年受診者も増えています。CTコロノグラフィも鹿児島県ではいち早く導入しました。早期発見が難しい膵がんは、新原亨(副院長兼消化器内科部長)がリーダーとなり、地域の先生方と連携し膵がんプロジェクトを立ち上げ、順調に推移しています。食道がんの早期発見にも注力しています。経鼻内視鏡検査を開始、新健診室を新設し、今後の予防医学の貢献にもますます努めてまいります。

これまで「科学の進歩にそった医療を提供できる病院」を理念とし、開設当時から一貫して日々の診断・治療・臨床研究に真摯に取り組んでまいりました。噴門部癌の診断学をまとめた「噴門部癌アトラス」の発刊、また松田彰郎(消化器内科部長)が「胃型分化型早期胃癌の画像診断・X線を中心に」で第29回村上記念『胃と腸』賞、「セリアック病の1例」が早期胃癌研究会で最優秀奨励賞を受賞となりました。これも数多く紹介をいただきました医療機関の先生方のおかげです。

現在から未来編

消化器内科・外科の一本化

がんバイオマーカーの開発競争が世界中で行われています。「線虫を用いたがんスクリーニング評価」を仁王辰幸(消化器内科部長)を中心に九州大学との共同研究で開始しています。消化器内科は15名の体制です。若い医師も多く、研修医2名も一緒になって日々、消化器疾患の診断と治療と研究に向き合っています。消化器内科医のエキスパートを育てることが南風病院の責務と考えています。消化器救急24時間365日体制もこれら医師全員で対応しています。

近年では、内科と外科の連携は不可欠です。消化器外科は現在9名体制で、若い医師も多く在籍しています。外科領域でも技術の進歩は目覚ましく、当院では鹿児島県では初めてのダヴィンチによる消化器がん手術(胃がん、直腸がん)を行いました。

平成21年

- 鹿児島県がん診療指定病院に指定
- 政幸一郎(消化器内科部長)、がん薬物療法専門医取得

平成22年

- 大腸ESD先進医療、鹿児島県で最初の認定施設として承認
- 「噴門部癌アトラス」の発刊

平成26年

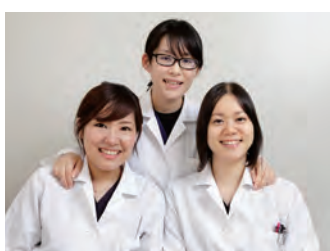
- 2台目となるPET/CT装置の導入
- 上部消化管・下部消化管・胆膵疾患の3つの領域でのチーム制の導入
- 女性医師による大腸内視鏡検査を開始
- 消化器救急24時間365日体制

平成27年

- 松田彰郎(消化器内科部長)、早期胃癌研究会最優秀奨励賞を受賞
- 膵がん早期発見プロジェクトの開始
- 外来化学療法室新設15床体制
- 新健診室の新設
- 手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入

今後、当院では消化器内科・外科一体となった総勢24名の体制で鹿児島の消化器疾患を支えていく気持ちです。また肝臓内科、放射線科、病理診断科などとチーム医療で消化器疾患の最善の医療の提供に努めてまいります。

Realize Our Innovations !!





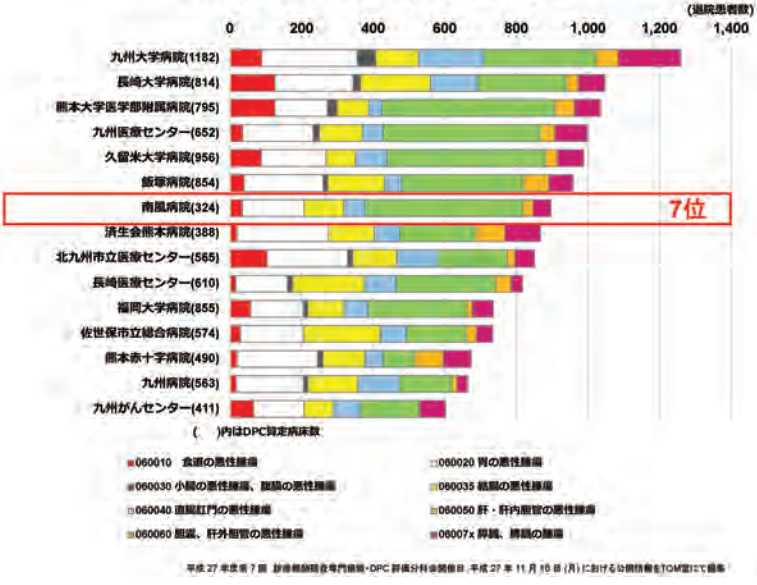
データで見る南風病院の診療実績（消化器疾患）

診療実績 / 消化管疾患の早期発見・早期治療

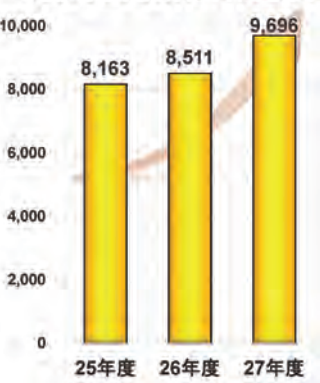
消化器がんの診断・治療に力を入れています。図1はDPCデータから九州医療圏の消化器がんの診療実績を集計しました。おかげさまでこれまで多くの患者さまをご紹介いただきました。

上部内視鏡検査は年々、増加傾向にあります。胃がんも食道がんも早期で発見されれば治るがんです。早期で発見し1人でも多くESD施行可能な症例を増やしていきたいです。大腸がんについても近年増加傾向のがんであり、女性医師が行う大腸内視鏡検査や大腸CT検査などバリエーションを増やして多くの患者さまに受診しやすい環境を提供できるよう心掛けています。

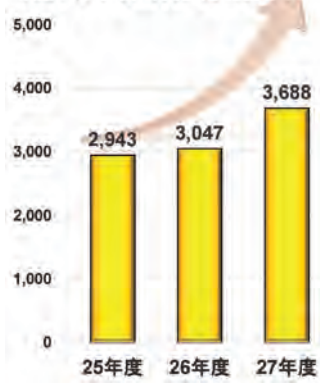
【図1】 消化器がん手術実績(九州医療圏)
MDC06 消化器系疾患のうち悪性腫瘍DPCコードを算出



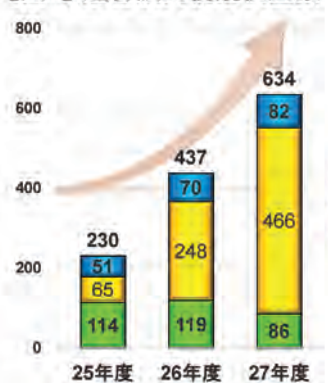
【図2】 上部消化管検査数



【図3】 下部消化管検査数



【図4】 超音波内視鏡検査数



【図5】 救急疾患の受入れ件数



膵がんの早期発見 / 消化器救急の充実

胆嚢がん、胆管がん、膵がんの早期発見にも力を入れています。2014年から開始した膵がんプロジェクトは、現在、登録数217件となります。2年間で発見されたステージ1の早期がんは7例になります。膵がんの早期発見には超音波内視鏡検査が必要不可欠です。そのため検査件数は顕著に増加しています。画像診断検査やエコー検査と組み合わせ、膵がんの早期発見に力を入れています。

また、2014年から消化器救急 24時間365日体制となり、消化器疾患の救急車搬送件数は800件を超えました。今後も地域医療のニーズに応えるべく消化器救急にも今まで同様全力で取り組みます。

胃がん編

松田部長へインタビュー

Q. 胃がんの診断で気をつけていることはどこでしょうか。内視鏡観察を行う上で注意していることなどありますか

まずは胃の中をきれいに洗浄することです。わずかな色調差も見分けられるように気をつけています。内視鏡観察を行う際、まずは、胃の表面構造を中心にみていき、範囲診断を心がけています。色調差も高低差もなく、がんの所



松田 彰郎
(消化器内科部長)

見に乏しい症例でも色素散布することで発見される症例が毎年数例あります。背景粘膜に注意を払い、萎縮の程度に応じて色調の変化を注意深く観察します。発生する疾患を想定し、観察を行います。検査工程はとても重要です。色素散布し全体を把握した後、一度きれいに洗浄し、拡大内視鏡や酢酸併用色素散布観察を行うようにしています。酢酸(ミツカン酢3倍希釈)にて散布すると、とてもクリアに観察ができます。内視鏡では観察しにくい部分(噴門部・胃体部後壁・胃角裏・胃体上部)がありますので、病変を見落とさないように十分注意を払います。また、術後の決定にはX線検査も欠かせない検査です。X線検査にて精密検査を行う際には、バリウムの濃度にも気をつけています。あまり粘度が高いときれいに撮影できません。べたつかず、ある程度サラサラした状態で胃全体に行き渡るようにして観察します。

— 早期胃癌研究会にて最優秀賞を受賞 —

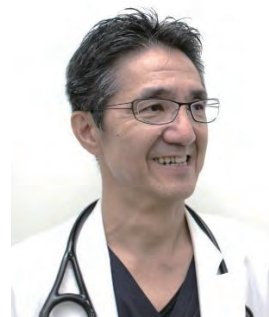
日本人では稀なセリアック病の診断・治療の症例を早期胃癌研究会にて発表し評価されました。この賞は南風病院消化器チームの総合力が評価されて得られたものと考えています。鹿児島島の消化器グループの先生方に感謝いたします。

食道がん編

島岡部長へインタビュー

Q. 食道がんの早期発見で重要な点は何ですか。また早期がんでの治療成績はどの程度か教えてください。

食道がんの早期発見には食道がんリスクの高い方に受診をしていただくことが最も重要です。食道がんリスクファクターには性別・年齢・飲酒歴などがあります。

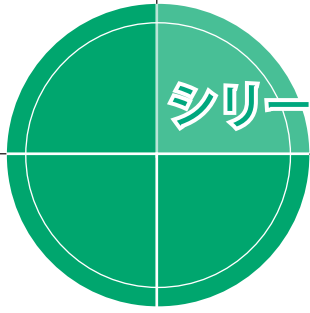


島岡 俊治
(消化器内科部長)

食道がんリスクの高い方にはNBI拡大観察、ヨード染色を行います。これらで早期食道がんのうちから診断することが可能です。近年ではESDの開発により広範な病変の切除が可能です。当院では2005年から、これまで219例256病変の食道がんに対してESDを実施しています。一括切除率は100%でESDの主たる合併症である出血や穿孔はなく、良好な治療成績です。ESD施行までに、術前検査、CT検査、PET/CT検査のため2~3回の外来受診が必要になります。ESDの前日入院し、順調にいけば6日間退院となります。

当院での2005年8月から2016年5月までのESD施行例212例にて追跡調査を行った結果、死因ががんであったケースでの5年生存率は、99.4%という結果でした。ESD施行ができた症例でも高い生存率を示すことがわかりました。

食道がんのリスクファクターについての研究成果で久里浜医療センター、国立がんセンターなどの共同研究で開発された問診票があります。とても有効なツールであり、当院でも食道がんのリスクをチェックする食道がん早期発見問診票をホームページ上に掲載する予定です。問診票でリスクの高い方にはヨード染色を含め、特に重点的に食道のチェックを行います。健診も含め、食道がんの早期発見・早期治療に努めてまいります。



肝臓がん < 肝臓内科 >

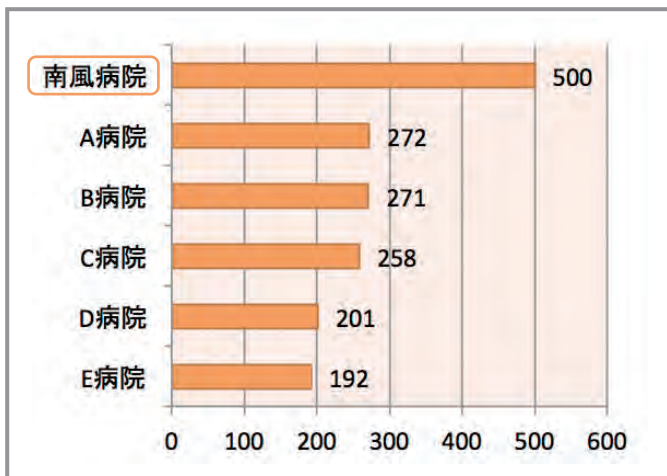
～ 県内上位の診療実績 / 適切な治療と地域連携 ～

■ 診療実績

病院別 肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む)治療実績

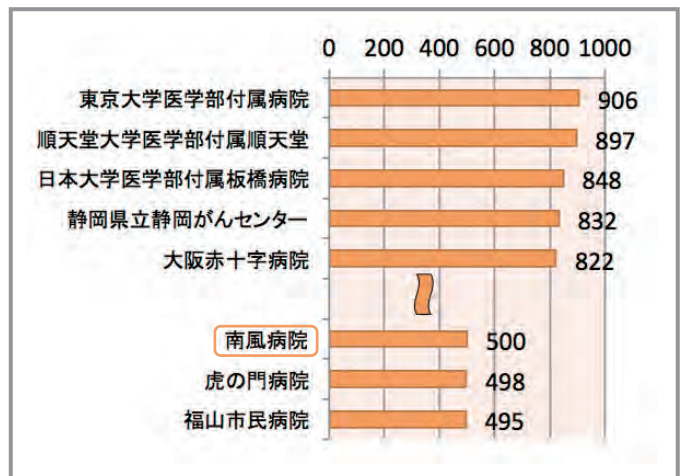
鹿児島県ランキング

県内1位



全国ランキング

全国28位



◆データ引用元: Caloo (病院口コミサイト カラー)
※DPC対象病院・準備病院・出来高算定病院の統計(2014年4月～2015年3月退院患者)

■ 肝臓がん診療の特徴

常勤医師4名(内3名、日本肝臓学会専門医)体制でウイルス性肝炎・肝細胞癌・肝不全の系統的診断・治療を行っています。また、他科との連携により、肝細胞癌に対するすべての治療選択肢を備えており、患者さんへ適切な治療を提供できる質の高い体制となっています。

< 主な治療法 >

- ・ 経皮的エタノール注入療法(PEIT) ・ 肝切除
- ・ 経皮的ラジオ波焼灼療法(RFA)
- ・ 経カテーテル的肝動脈塞栓術(TAE)
- ・ 肝動注用リザーバー埋め込み術 ほか



IVR-CT

血管造影とCTを組み合わせた精度の高い装置を使用しています

■ 地域との連携体制

肝細胞癌の早期発見において当院では、地域の先生方との連携を主体とした定期的な検査を実施しております。また、国内、国外での治療技術の情報収集や地域の先生方を対象とした研修会を行い、情報交換の場をもうけるなど地域連携にも積極的に取り組んでいます。

地域の先生方と連携をとることで、患者さまに安全で有効な治療法の確立を目指しています。

南風病院では、地域の先生方との連携による医療の提供「連携医療」を推進しています。今回は、始良市 尾田内科胃腸科 尾田一郎院長、尾田恵子副院長先生にお話しをお聞きしました。

いつまでも元気で安心して生活が送れるように



尾田内科胃腸科

院長 尾田 一郎 先生

副院長 尾田 恵子 先生

Q1 クリニックについて教えてください

当院は平成4年に開院し、地域の皆さんのホームドクターとして診療を行っています。診療は内科全般を行っていますが、専門としては、消化器内科(尾田一郎院長)と人工透析(恵子副院長)になります。消化器内科では、内視鏡検査、大腸ポリペクトミー、腹部超音波検査、ERCP、CT検査まで実施しております。当院で対応が難しい検査・治療に関しては専門の病院に紹介する形をとっています。透析治療では12台の透析装置を整備し、月・水・金で夜間透析にも対応しております。自宅が医院の隣にありますので、当院のかかりつけの患者さんが緊急で診療が必要な際には、休日や時間外でも可能な限り診療を行うことを心がけています。

Q2 南風病院との連携はどのようなものでしょうか？

消化器科領域では、早期癌でのESD等の内視鏡治療や膵癌の早期発見を目的とした精査を多くお願いしています。そして、南風病院の24時間体制での吐血などの消化器疾患の救急体制には、消化器科の診療を行う開業医としては本当に助かっています。

また、人工透析を行う患者さんの外科治療を行う病院は、県内でも限られるため、その点でも南風病院との連携を取っています。当院の恵子副院長と下宮看護師長が、以前、南風病院に勤務していたこともあり、とても親しみのある病院です。



Q3 これからの展望や抱負はいかがでしょうか？

平成4年に開院した当時は、周りには田畑が広がっていましたが、今では住宅街となり人口も増えてまいりました。また、透析治療を受ける患者さんも含めて、段々と高齢な方も多くなっています。当院をかかりつけとされている患者さんが、いつまでも元気で安心して生活が送れるように少しでもお手伝いできればと思います。



尾田内科胃腸科 診療科：内科・胃腸科・呼吸器科・循環器科

〒899-5652 始良市平松 4730 TEL 0995-65-7511 FAX 0995-65-7834

病床数19床(療養病床12床/急性期病床7床)

「Forbes JAPAN10月号(8/25発売)【現役医師621人が選ぶ「名医も行きたい病院」ランキング】~」の中で「大腸がんが全国5位」に、「胃がんが全国7位」に選ばれました。



消化器内科医師一覧 (職名/認定医・専門医)

西俣 寛人	名誉院長兼主任部長/日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本消化器内視鏡学会指導医 日本内科学会認定内科医、日本医師会認定産業医
西俣 嘉人	政消化器病研究所所長/日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器病学会指導医 日本大腸肛門病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医、日本内科学会認定内科医、 日本消化管学会胃腸科認定医・専門医、日本医師会認定産業医、日本消化管学会胃腸科指導医
堀 雅英	消化器センター顧問/日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本消化器内視鏡学会指導医
新原 亨	副院長兼部長(胆膵グループリーダー)/日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会消化器病専門医、 日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本消化器内視鏡学会指導医、 日本カプセル内視鏡学会認定医・指導医、日本消化管学会胃腸科専門医・指導医、日本消化器病学会九州支部例会評議員、 日本消化器内視鏡学会九州支部例会評議員
仁王 辰幸	消化器病センター所長(大腸グループリーダー)/日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会消化器病専門医、 日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本消化器内視鏡学会指導医、 日本消化管学会胃腸科専門医・指導医、日本消化器病学会九州支部例会評議員、 日本消化器内視鏡学会九州支部例会評議員、大腸癌研究会施設代表
松田 彰郎	部長(胃グループリーダー)/日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器病学会指導医、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本消化管学会胃腸科専門医・指導医、 日本消化器病学会九州支部例会評議員、日本消化器内視鏡学会九州支部例会評議員、日本内視鏡学会学術評議員
島岡 俊治	部長(ESDグループリーダー)/日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会消化器病専門医、 日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本消化器内視鏡学会指導医、 日本消化管学会胃腸科専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会評議員・九州支部例会評議員、 日本消化器病学会九州支部例会評議員、 日本消化器内視鏡学会 上部消化管出血内視鏡的止血術診療ガイドライン委員会委員
田代 光太郎	部長/日本外科学会認定医
政 幸一郎	科長/日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、 日本消化管学会胃腸科専門医・指導医
海田 正俊	日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
楠元 大岳	日本内科学会認定内科医
飯福 沙織	日本内科学会認定内科医
馬場 由紀子	日本内科学会認定内科医
岩木 宏介	(非常勤)
豊田 真理	(非常勤)

■外来診療予約窓口 直通TEL: 099-805-2259

■画像診断センター 直通TEL: 0120-332-411 直通FAX: 0120-332-967

■医療連携室 直通TEL: 099-805-2732 直通FAX: 0120-707-142

理念 人にやさしく、あたたかく

基本方針

- 1 医療を通して地域社会に貢献する
- 2 患者さま本位の診療を行う
- 3 最新の医療の提供に努める
- 4 活力に満ち、働きがいのある職場を目指す
- 5 病院として健全な発展を続ける



公益社団法人鹿児島共済会 南風病院
〒892-8512 鹿児島市長田町14番3号

TEL 099-226-9111

FAX 099-223-1573

URL <http://www.nanpuh.or.jp/>